

NISHIKABURAMINAMI-SITE

西 燕 南 遺 跡

まきばの郷整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



2004・3

長坂町教育委員会

NISHIKABURAMINAMI-SITE

西 蕪 南 遺 跡

まきばの郷整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2004・3

長坂町教育委員会

序

長坂町は広大な八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置し、国蝶オオムラサキの生息地として全国的に知られているように、自然に恵まれた高原の町です。それとともに、県内でも最大規模を誇る縄文時代の集落である酒呑場遺跡をはじめ、およそ200ヶ所に上る遺跡の密集地帯としても知られています。

長坂町教育委員会では各種の開発事業に際し、このように数多い遺跡の保護をはかりつつ、必要に応じて発掘調査を実施し、記録として遺跡の内容を後世に伝えるための文化財保護事業を推進しております。

本書は平成13年度にまきばの郷整備事業にともない発掘調査を実施した西燕南遺跡の調査報告書です。西燕南遺跡の所在する中丸地区は、これまで他の地区と比べ開発が少なく、発掘調査事例も少ない所です。縄文時代前期末や晩期末の土器がまとめて出土した新宿区健康村遺跡、縄文時代中期の住居跡が発見された東燕4遺跡など数遺跡が調査されているだけです。

今回の調査で、西燕南遺跡から平安時代の集落が発見されました。中でも、資料の乏しい該期の様相の解明に寄与する貴重な資料となりました。

最後に、西燕南遺跡の調査にあたり、格別なご理解をいただいた中丸地区の皆様をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が広く教育や研究の場で活用されることを期待しています。

2004年3月

長坂町教育委員会
教育長 小尾章臣

例 言

1. 本書は、2001（平成13）年度に実施した山梨県北巨摩郡長坂町中九字西燕地内に所在する西燕南遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、まきばの郷整備事業に伴う事前調査であり、長坂町役場産業課より委託を受けて長坂町教育委員会が実施したものである。
3. 発掘調査組織は以下のとおりである。
 調査主体 長坂町教育委員会
 教育長 瀬戸龍徳（～H14・3）、小尾章臣（H14・4～）
 教育課長 三井 茂（～H14・7）、小尾幸臣（兼任、H14・8～）
 教育係長 望月和夫（～H14・3）、日向明美（H14・4～）、奥石君夫（H15・10～）
 調査担当 村松佳幸
 発掘作業員 横山幸男 國府田孝吉 藤川繁昌
 宮原征人 名取初子 清水三忠
 整理作業員 有野明子 石川昭江 井出仁美
 清井ゆき枝 橋本はるみ 日向登茂子
4. 本書の執筆・編集は、村松佳幸（長坂町教育委員会学芸員）が行った。
5. 発掘調査および整理作業において基準点測量を株式会社テクノに委託した。
6. 遺構・遺物の写真撮影は村松が行った。
7. 本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、長坂町教育委員会に保管している。
8. 発掘調査および報告書作成にあたっては、多くの方々にご指導、ご教示を賜った。深く感謝の意を表す次第である。

凡 例

1. 掲載した遺構・遺物実測図の縮尺及び遺物分布のマークは各図版中に示してある。
2. 拓影図で両面を載せているものは、外面―内面―断面の並びで配置している。
3. 遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。
4. 第1図は、株式会社写測2000年測製、1/25,000長坂町余図（国土地理院発行1/25,000地形図を複製したものを基に、第2図は、国際航業株式会社1994年測製1999年修正、1/10,000長坂町余図を基に作成した。
5. 座標値は旧座標を使用している。

西燕南遺跡目次

序

例言・凡例

目次

第1章	調査の経過と概要	1
第1節	発掘調査に至る経過	1
第2節	発掘調査の概要	1
第2章	遺跡の立地と環境	1
第1節	地理的環境	1
第2節	歴史的環境	1
第3章	発見された遺構と遺物	1
第1節	基本層序	1
第2節	遺構と遺物	2
第4章	まとめ	2
	引用・参考文献	2

図版目次

第1図	西燕南遺跡周辺の遺跡分布図	3
第2図	西燕南遺跡周辺地形図	4
第3図	調査区全体図	5
第4図	1号住居跡、同遺物出土状況	6
第5図	1号住居跡竈、同遺物出土状況	7
第6図	1号住居跡出土遺物①	8
第7図	1号住居跡出土遺物②	9
第8図	1号住居跡周辺ピット群	10
第9図	2号住居跡、同遺物出土状況	11
第10図	2号住居跡竈、同遺物出土状況	12
第11図	2号住居跡出土遺物	13
第12図	3号住居跡、同遺物出土状況	14
第13図	3号住居跡出土遺物、試掘トレンチ、同出土遺物	15
第14図	1～5号土坑、調査区土層断面図	16
第15図	遺構外出土遺物、調査区遺物分布	17

表 目 次

第1表	遺跡地名表	3
第2表	住居跡一覧表	18
第3表	土坑・ピット一覧表	18
第4表	遺物観察表	19
第7表	遺構別出土遺物一覧表	20

写真図版目次

図版1	西燕南遺跡近景、調査区近景①～⑥、1号住(右)・2号住(左)、1号住(手前)・2号住(奥)
図版2	1号住居跡(西から)、1号住居跡(北から)、1号住竈、1号住竈発掘状況、1号住竈遺物山土状況
図版3	2号住居跡(北から)、2号住竈、2号住竈発掘状況、2号住ピット1遺物出土状況、2号住紡錘車出土状況
図版4	1号住周辺ピット群、1・3～5号土坑
図版5	1号住山土遺物①～③、2号住出土遺物①、②、3号住出土遺物①、②、試掘トレンチ出土遺物

第1章 調査の経過と概要

第1節 発掘調査に至る経過

長坂町は、熊地区の酪農家の牧場で堆肥を作り、家畜排棄物等の効率的処理を目的としたまきばの総整備事業を計画した。そして、その堆肥を水稻や果樹・野菜農家へ分配する有機堆肥生産組合を組織し、農産物の生産促進も目指していた。2000（平成12）年11月に堆肥舎を建設する5ヶ所の予定地における埋蔵文化財の照会を受け、周知の埋蔵文化財包蔵地のところは埋蔵文化財発掘の届出を提出するよう指導した。それ以外の所も包蔵地の可能性があるため、2001（平成13）年1月全ての予定地を試掘調査した。

その結果、西熊南遺跡内にある野口牧場で、平安時代の住居跡が確認され、堆肥舎の建設により遺構が壊されるため、事前の発掘調査を実施することになった。

調査は長坂町教育委員会による直営方式で実施し、2001（平成13）年7月26日から開始し、同年9月8日に終了した。整理作業は2003（平成15）年6月から開始し、2004（平成16）年3月に終了した。

第2節 発掘調査の概要

野口牧場での堆肥舎建設予定地は、町道沿いにあるトウモロコシ畑の中であった。調査面積は268㎡である。

調査区に発掘調査・遺構測量の基準として10m間隔のグリッドを設定し、西から東方向に1～8、北から南方向にA～Gとグリッド番号を付けた。

調査は、小型重機により表土を剥ぎ、その後人力で遺構確認面まで掘削していった。遺構確認面に至ると丁寧に精査を行い、順次遺構を確認していった。遺物は、小さいものについては一括として取り上げ、ある程度大きさのものは光波測量機で出土原位置を記録した。

遺構は土層断面・遺構平面図・遺物出土状況図等を、必要に応じて平板実測あるいは簡易透写等の手作業により図化し、調査の状況に合わせて写真撮影を行った。

なお、試掘調査において、その時期に建設予定地内に作物が栽培されていたため、それを避けて何も栽培されていないところに試掘トレンチを設定した。そこで平安時代の竪穴住居跡を確認し、建設予定地内にも集落の範囲が及ぶと判断したため、本調査を実施した。

発見された遺構は、試掘トレンチで確認されたものも含め、平安時代の竪穴住居跡4軒、土坑9基、ピット24基である。出土遺物は、縄文時代中期初頭～中期後半の上器・石器、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・金属製品等が出土している。

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

本遺跡の所在する北巨摩郡長坂町は、山梨県の北西部に位置し八ヶ岳南麓に立地する、南北約18km、東西約6kmの細長い町である。八ヶ岳の山体が崩壊し起こった蕨崎火砕流によって形成された台地上にある。標高1,200m以上が急峻な山地帯になっており、それ以下は比較的緩やかな地形となり、八ヶ岳南麓高原や長坂台地、八ヶ岳南麓低地等が広がる。

八ヶ岳南麓には、比較的多くの湧水があり、これを水源とする小河川は南流し浸食作用によっていくつもの舌状台地を形成している。台地上は水利が悪いため、豊富な水量の湧水を引いて開発した灌漑用水や灌漑用溜池が数多く、県下でも溜池の多い地域となっている。

本遺跡の所在する中丸地区は、町中央の西側に位置し、地区の真ん中を大深沢川と小深沢川が南流する。各河川の両岸の台地上にも小河川による浸食によって大小の舌状台地が形成され、本遺跡もその一つに立地する。

第2節 歴史的環境

本遺跡のある中丸地区にも遺跡が数多く存在し、そのいくつかが発掘調査されている。

新宿区健康村遺跡は、本遺跡の南東約1kmのところに所在する。新宿区民の総合の余暇活動施設である「新宿区民健康村」の建設にともない、1992（平成4）年に新宿区民健康村遺跡調査団により発掘調査された（板倉1994）。縄文時代の住居跡2軒、平安時代の住居跡14軒、土坑22基、焼土跡2基、埋壺3基、石組土坑6基等が発見され、ナイフ形石器・縄文土器（前期末～中期初頭・中期後半・後期初頭・晩期末）・土師器・灰釉陶器・石器・鉄器等が出土した。E地区から縄文時代晩期終末の上器群がまとまって出土した。

東薬4遺跡は、本遺跡から北東へ約500m離れた所に位置し、集落遺址掘工事に伴い発掘調査された（小宮山2002）。縄文時代中期の竪穴住居跡1軒、土坑8基、ピット5基、集石遺構1基が発見され、縄文時代早期末～後期初頭・中期～後期の土器が出土している。

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 基本層序

調査区北側の高まり周辺は、褐色の耕作土の下に黒褐色土があり、その下は黄褐色土ローム層になる。その高まりを下った南から西側にかけは、上部から耕作土、

暗褐色土(約20cm)、茶褐色土(約20cm)、黒褐色土(約50cm)、灰褐色土の順で堆積している。中間の茶褐色土には暗褐色土と黄褐色土が混ざり合っており、二次堆積と考えられる。よって、住居跡が分布する低いところは埋没谷と考えられ、茶褐色土が堆積した後、そこに住居が構築されている。その上の暗褐色土が遺物包含層であり、縄文時代以降の遺物が出土しているため、茶褐色土は縄文時代以前に堆積したと考えられる。黒褐色土は無遺物層であった。

第2節 遺構と遺物

紙面の都合上、各遺構・遺物の詳細は、第2～4表に譲り、ここでは特筆すべき点を述べていく。

1号住居跡(第4～7図)

住居の規模は2.47m×3.08mと小さく、隅丸の正方形である。竈は南東隅に構築されている。焚き出し口の方角は、住居中央に向いているのではなく、南壁に沿う方向に向いている。竈は、補石以外は壊されており、中に拳大以上の礫と瓦・羽釜・甕形土器などの破片が入れられていた。甕形土器に関しては、使用頻度が低く破片で出土することが多いという指摘(岡野1994)と同様であり、竈から出土することが竈神信仰と関連しているようである。この出土事例も竈を廃棄するときに祭祀を行った可能性があると考えられる。

住居跡の時期は、第6図1の甲斐型環や甲斐型甕の口縁部形態、羽釜・甕き甕等が伴していることから判断すると、宮ノ前編年(平野他1992)Ⅱ期(890～920年)と考えられる。

1号住居跡の周辺にピット群があり、住居の軸と合うように並ぶピットが一部認められる(第8図)。住居跡とピットの同時性の確証はないが、壁穴・外柱穴の報告例(平野他2001)が増えつつあるので、両者の関連性を否定できない。

2号住居跡(第9～11図)

住居の規模は4.48m×3.88m、南北に長い長方形をしている。竈は東壁中央やや南寄りにあり南東隅に貯蔵穴と思われるピットがある。竈は補石と支脚石が残り、天井石はややずれていた。竈の中の遺物はそれほど多くなく、ピット1内の方が多と思われる。支脚石は断面形が二等辺三角形の三角柱で、明らかな加工痕は確認できなかったが、加工されたものであろう。住居跡の時期は、甲斐型環が少ないため確証は低いが、宮ノ前編年Ⅱ期と考えられる。第11図2は小型の粗製甕で、一見すると縄文土器のようであるが、口縁部に口クロナデがあるので、平安時代の甕とした。33は金属製の紡錘車である。

3号住居跡(第12・13図)

住居の壁・竈・周溝などが確認出来ていないが、以下の点で住居と判断した。遺物分布が1・2号住居跡と同様に密集していること。竈の跡と考えられる焼土跡(1号焼土)があること。焼土の近くに貯蔵穴となりうる土坑(5号土坑)があること。

図示した住居の推定線は、2号住居跡の規模や形態・主軸方向を参考にしているもので、確証はない。しかし、その範囲から出土した遺物は、限定的な時期のものであるので、住居であったと考えてよいであろう。その時期は、第13図1・4より宮ノ前編年Ⅱ期(860～890年)と考えられる。また、16～25は、製作技法は甲斐型甕と同じであるが、胎土が白っぽく、雲母も目立たないものである。

第4章 まとめ

今回の調査では平安時代の集落が確認できた。調査区の東側は谷筋になっているので、集落の東端を調査したことになる。北・西・南側に集落が展開していると考えられる。また、縄文時代の遺物も出土したので、北側の台地の平沼部に縄文時代の集落があると思われる。

本遺跡のある熊地区に現在住んでいる人たちは、戦後に入植した方がほとんどで、それまで人が住んでいなかったようである。しかし、今回の調査で、少なくとも平安時代の9世紀後半から10世紀前半には人が住んでいたことが確認できた。当時の人たちは木岡の地に来て、開墾をはじめたのであるから、戦後入植してきた人たちと同じような意識があったと思われる。平安時代の開墾状況に不明点が多いので比較しようもないが、現代の入植と比べるとは意義深いものであると思われる。

引用・参考文献

- 板倉敏之 1994『熊旗村遺跡』新宿区区民熊旗村遺跡調査刊
- 岡野秀典 1994『甲斐国の甕形土器』山梨考古学論集Ⅲ 山梨県考古学協会
- 小宮山隆 2002『東燕4遺跡』長坂町教育委員会
- 平野 修他 1992『宮ノ前遺跡』市川市遺跡調査会
- 平野 修他 2001『石原田北遺跡』Jマート地点 石原田北遺跡発掘調査団



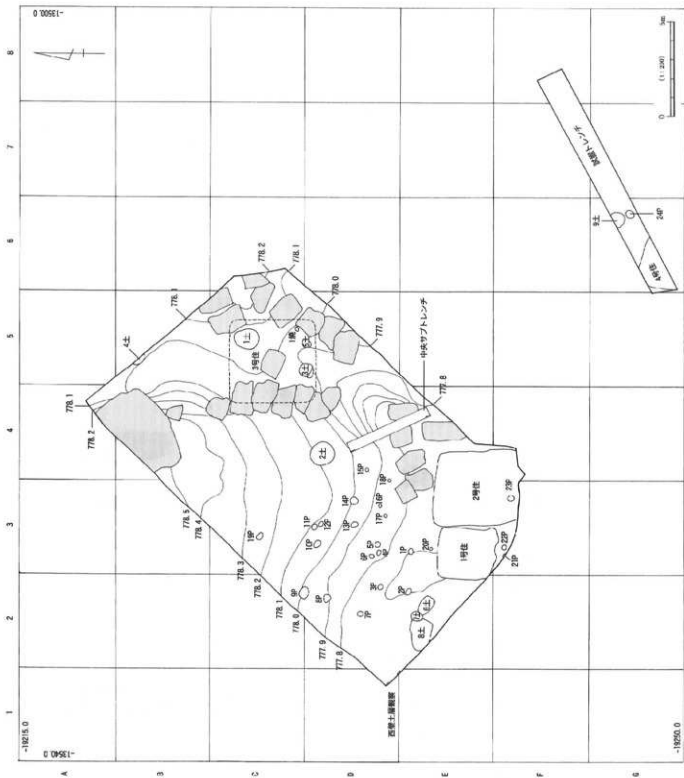
第1図 西燕南遺跡周辺の遺跡分布図

018 新田森遺跡	縄	076 東条3遺跡	平	093 細久保遺跡	縄	151 池ノ平A遺跡	縄	奈	平
019 西下原敷南遺跡	縄	077 東条2遺跡	縄	094 後平遺跡	縄	163 横針・中山遺跡	縄	平	中
024 十郎林遺跡	縄	078 東条4遺跡	縄	095 狐平北遺跡	縄	164 大林遺跡	縄	平	江戸
025 阿原遺跡	平	079 東条1遺跡	縄	096 狐平南遺跡	縄	168 上町南遺跡	縄	中	平
026 中尾根遺跡	縄	080 和手山東遺跡	中	097 大平遺跡	縄	171 長坂上条遺跡	縄	弥	平
036 下フノリ平北遺跡	縄	081 小地平遺跡	旧	098 下島久保遺跡	縄	172 西久保遺跡	縄	中	江戸
037 鳥原遺跡	縄	082 岡の原遺跡	縄	099 高久保遺跡	縄	173 新原遺跡村遺跡	縄	平	江戸
038 下フノリ平南遺跡	縄	083 西条東遺跡	平	100 石倉遺跡	縄	184 北村北遺跡	縄	中	平
039 下フノリ平南遺跡	平	084 西條遺跡	縄	101 上町遺跡	縄	185 酒呑地東遺跡	縄	弥	平
050 米山遺跡	縄	★085 西條南遺跡	縄	102 蓮香場遺跡	縄	187 北村東遺跡	縄	古	平
051 米山東遺跡	縄	086 和手遺跡	縄	107 西村遺跡	古	190 池之平北遺跡	縄	平	中
066 成岡遺跡	縄	087 渡巻遺跡	縄	108 中反遺跡	縄	195 榎原遺跡	縄	平	中
067 成岡新田遺跡	縄	088 城山上北遺跡	縄	109 柿平・藤原	縄	197 竹原遺跡	縄	中	江戸
072 葛中久保遺跡	縄	089 城山上北遺跡	縄	136 反田遺跡	縄	198 天白岩址	中	畿	国
073 久保遺跡	縄	090 中丸岩址	戦	137 三井氏屋敷址	縄	201 横針・室久保遺跡	旧	石	縄
074 房屋敷遺跡	縄	091 房久保遺跡	縄	138 北村遺跡	縄	205 中田遺跡	縄	中	平
075 池ノ平遺跡	縄	092 清倉白樺美術館南遺跡	縄	150 池ノ平昭和堤北遺跡	縄	206 長坂上条・藤原遺跡	古	平	

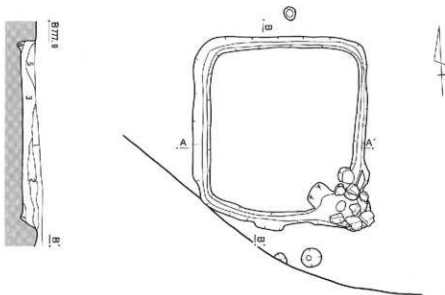
第1表 遺跡地名表



第2図 西燕南遺跡周辺地形図

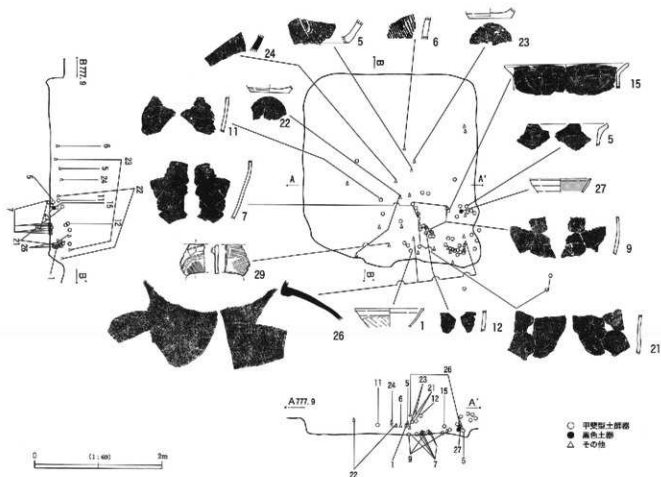


第3回 興泰区全体図 (網かけ部は採点を示す)

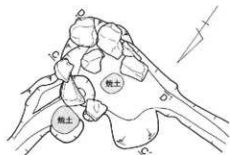


1号住居

1. 暗褐色土 褐色土少量、1mクーム粒少量
2. 暗褐色土 1層より出る、褐色土やや多量、1mクーム粒少量
3. 暗褐色土 褐色土若干、1mクーム粒少量
4. 暗褐色土 炭化物少量、1mクーム粒やや多量
5. 暗褐色土 赤褐色土少量、褐色土ブロック少量、5mクーム粒少量
6. 暗褐色土 褐色土やや多量、1mクーム粒少量
7. 黒褐色土 炭化物少量、1mクーム粒少量



第4図 1号住居跡、同遺物出土状況



C777.9

C'



D777.9

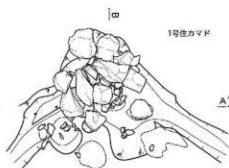
D'



B778.0

A

B'



1号住カマド

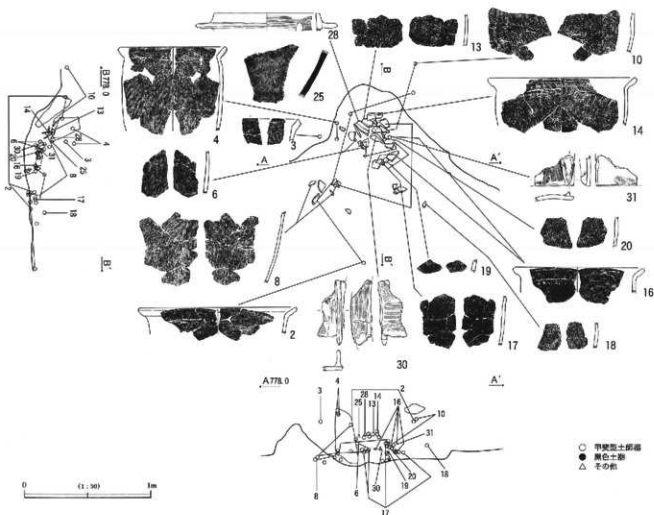
A778.0

A'

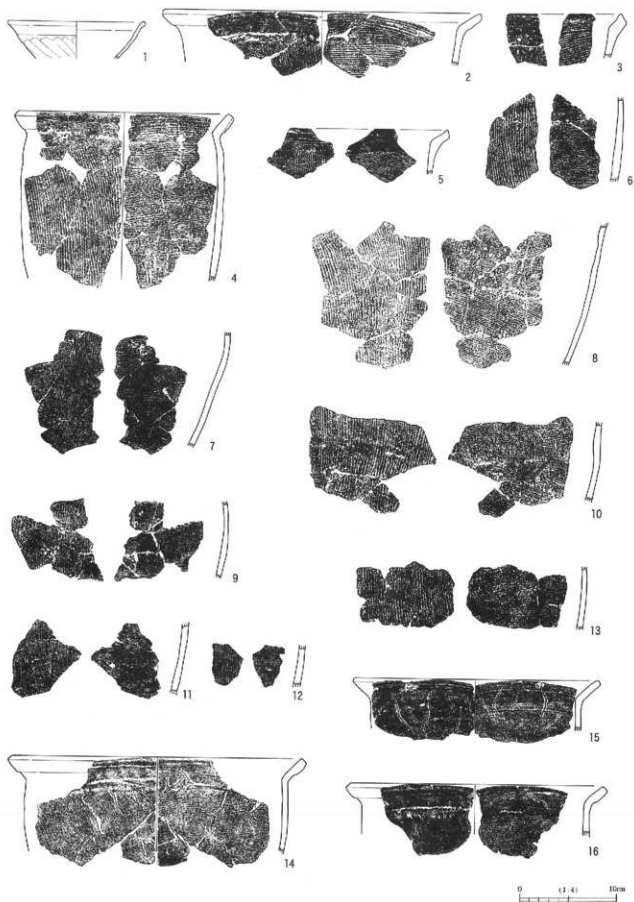


1号住窟

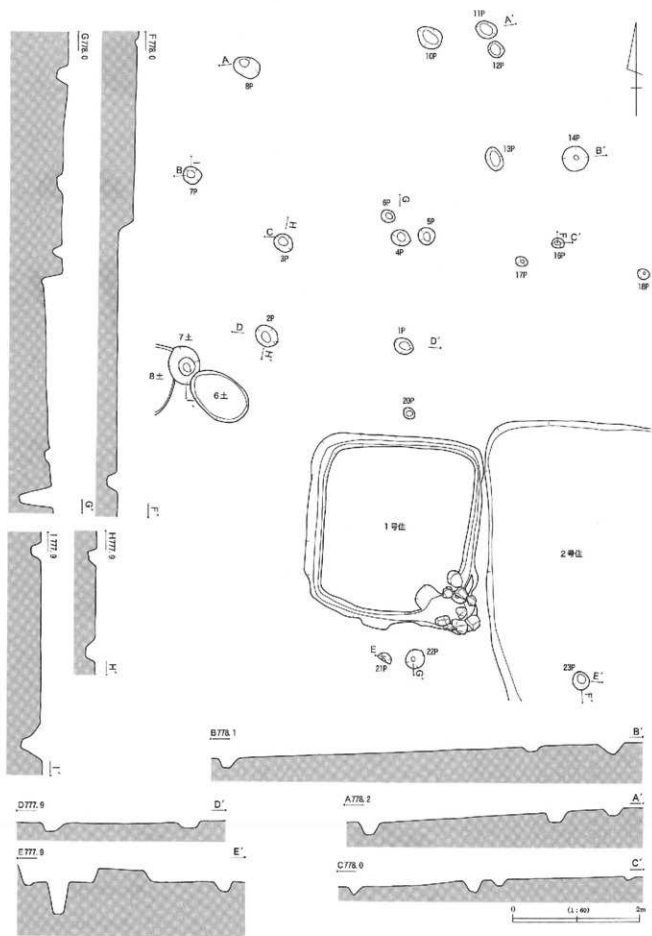
1. 黒褐色土 2層より明るい、1mmロームブロック多量
2. 黒褐色土 1層より暗い、1mmロームブロック含む
3. 暗褐色土 2層より暗い、茶褐色土や多量、1mmロームブロック少量
4. 茶褐色土 1層より暗い、黒褐色土少量、1mmロームブロックやや多量
5. 紅褐色土 粘土層
6. 黒褐色土 1mmロームブロック少量



第5図 1号住居跡、河遺物出土状況



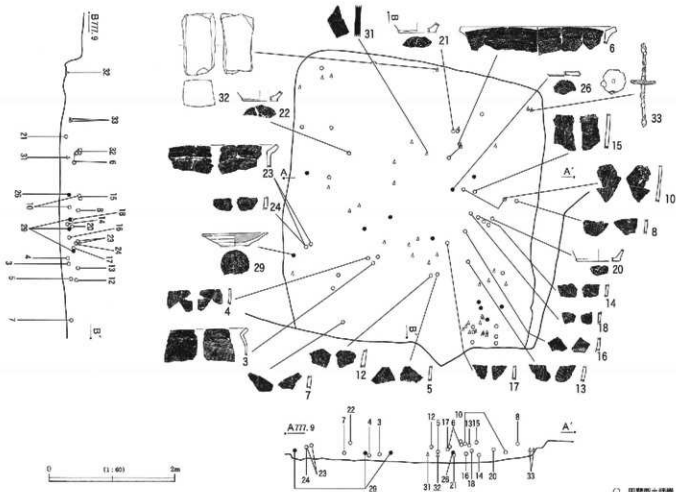
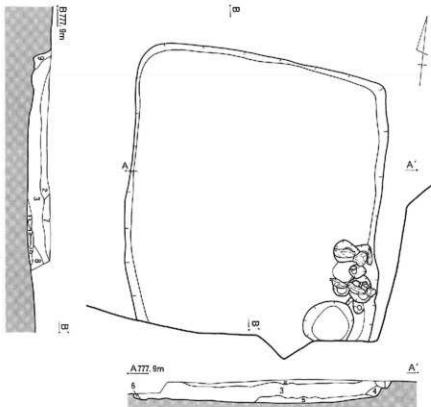
第6图 1号住居跡出土遺物①



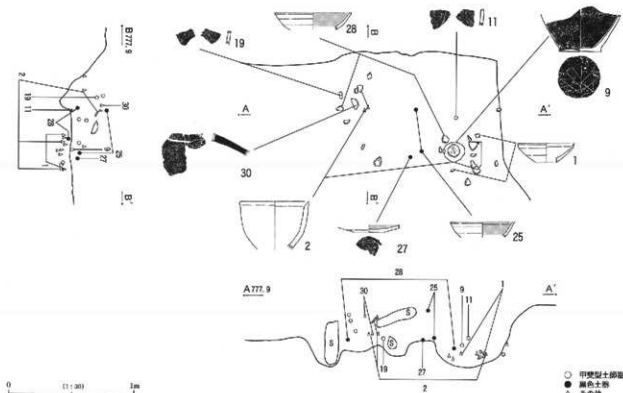
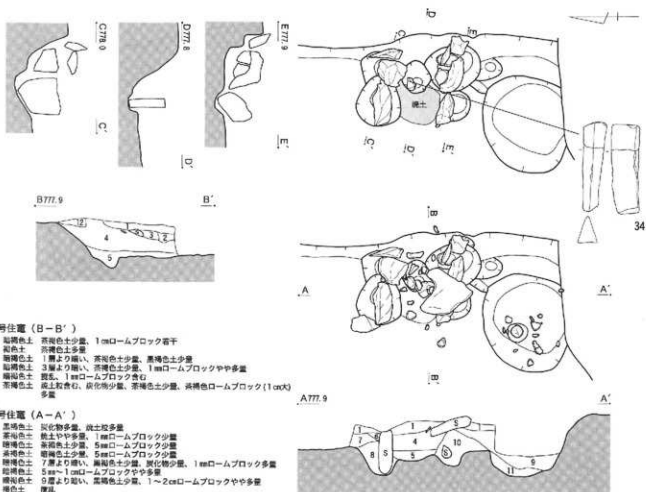
第8図 1号住居跡周辺ピット群

2号住居

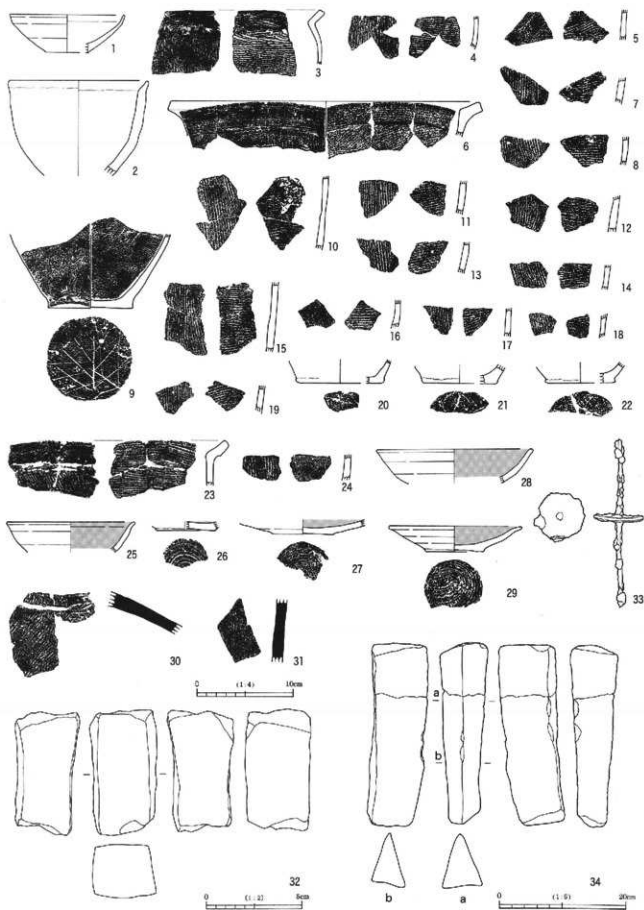
1. 赤褐色土 黒丸、赤褐色土ブロック
2. 黒褐色土 赤褐色土、黒褐色土混じり、1mmローム粒少量
3. 赤褐色土 2層より明るい、赤褐色土含む
4. 赤褐色土 3層より明るい、1mmローム粒少量
5. 赤褐色土 赤褐色土多量、1mmローム粒少量
6. 赤褐色土 1mmローム粒少量
7. 赤褐色土 厚丸、赤褐色土多量
8. 赤褐色土 赤褐色土少量、1~5mmローム粒多量
9. 赤褐色土 3層より明るい、赤褐色土少量、1mmローム粒やや多量
10. 赤褐色土 赤褐色土少量、5mmローム粒少量
11. 赤褐色土 1mmロームブロック少量
12. 赤褐色土 10・11層より明るい、赤褐色土やや多量



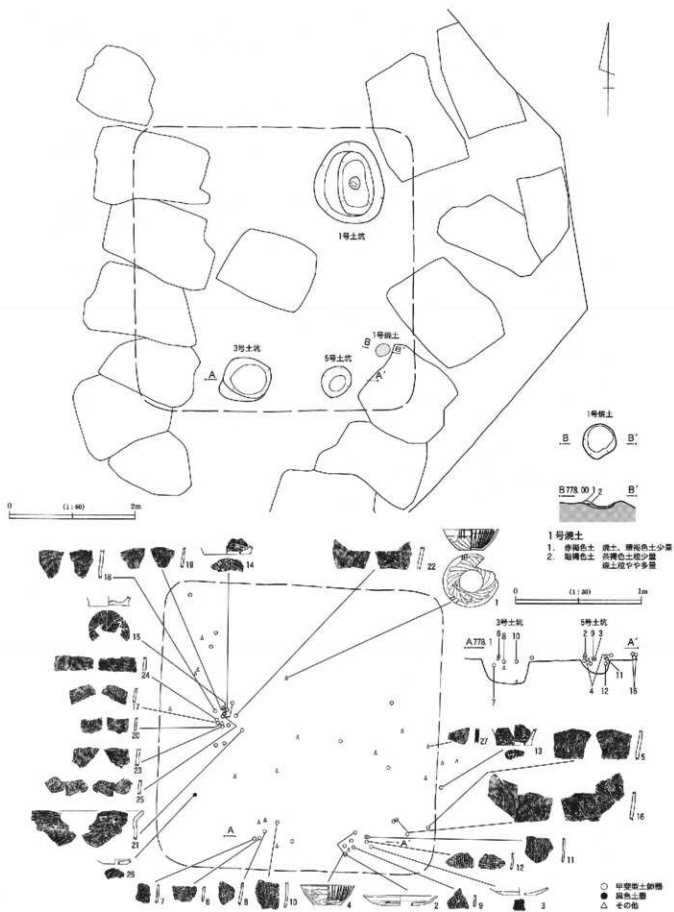
第9図 2号住居跡、同遺物出土状況



第10図 2号住居跡、同遺物出土状況

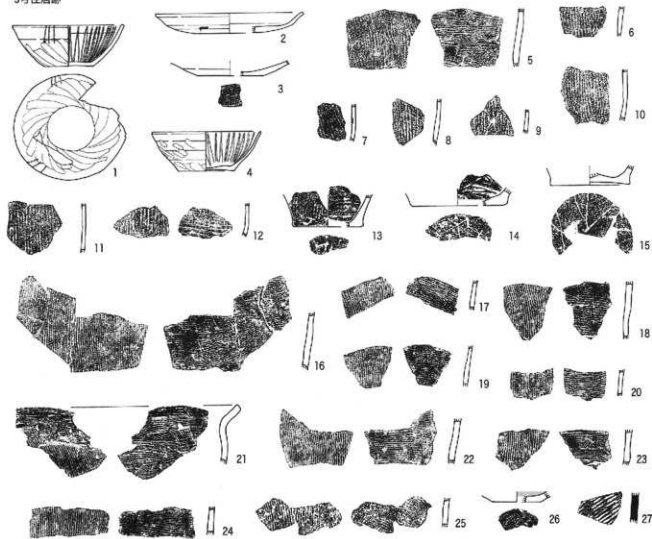


第11图 2号住居跡出土遺物

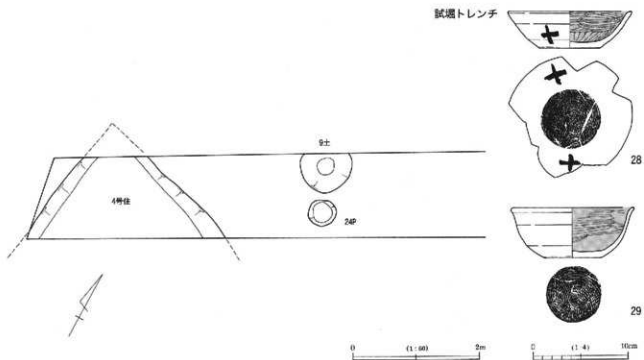


第12图 3号住居跡、同遺物出土状況

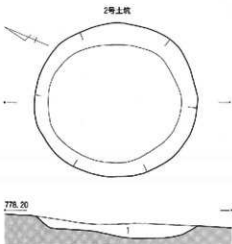
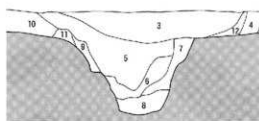
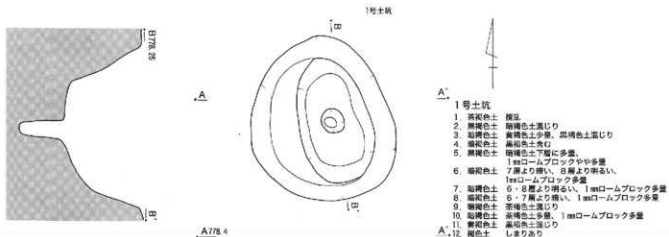
3号住居跡



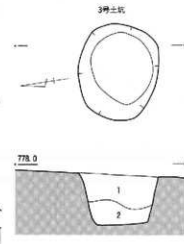
試掘トレンチ



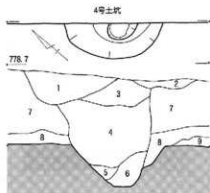
第13図 3号住居跡出土遺物、試掘トレンチ、同出土遺物



2号土坑
1. 灰褐色土 黒土、黒褐色土少量、1~5 mロームブロック多量

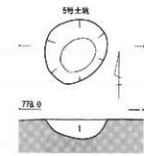


3号土坑
1. 褐色土 黒褐色土含む、褐色土ブロックφ1cm多量、1cmロームブロック多量
2. 灰褐色土 黄褐色土やや少量、褐色土含む、5mロームブロック少量



4号土坑

1. 灰褐色土 埋込、黒褐色土多量、黄褐色土多量
2. 黒褐色土 灰土、黒褐色土少量
3. 灰褐色土 2層より薄い、灰褐色土混じりやや多量、褐色土少量
4. 黒褐色土 3層より薄い、褐色土含む、切褐色土少量、灰褐色土混じりやや多量
5. 褐色土 1mロームブロック少量
6. 灰褐色土 灰褐色土混じり、灰褐色土少量
7. 灰褐色土 褐色土少量、灰褐色土少量
8. 灰褐色土 灰褐色土多量、灰褐色土少量
9. 黄褐色土 灰褐色土多量、灰褐色土少量

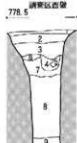


5号土坑
1. 灰褐色土 褐色土少量、1cmロームブロックやや多量



中央サブプレナ西壁

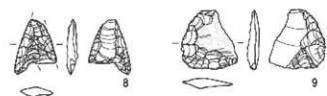
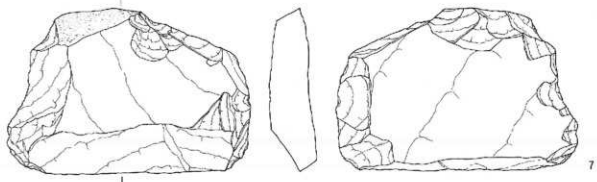
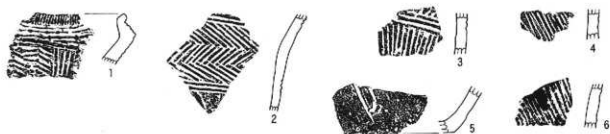
1. 黒褐色土 埋込(コンクリ)、灰褐色土多量、黄褐色土多量
2. 黒褐色土 褐色土やや多量、茶褐色土含む、1~5mロームブロック多量
3. 灰褐色土 灰褐色土少量、5mロームブロック少量
4. 灰褐色土 灰褐色土やや多量、黒褐色土やや多量
5. 黒褐色土 灰褐色土やや多量、黄褐色土少量、1mロームブロック少量
6. 黒褐色土 灰褐色土少量、黄褐色土少量
7. 灰褐色土 5mロームブロック少量
8. 灰褐色土 灰褐色土少量



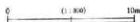
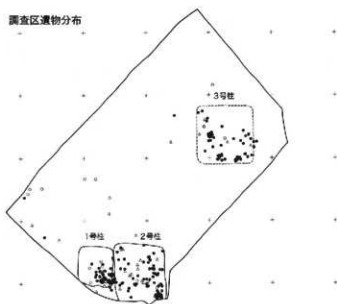
調査区西壁

1. 灰褐色土 埋込
2. 灰褐色土 灰褐色土混じりやや多量、灰化層少量
3. 灰褐色土 2層より薄い、黄褐色土少量、灰化層少量
4. 灰褐色土 3層より薄い、灰褐色土やや多量
5. 灰褐色土 4層より薄い、3層より薄い、茶褐色土少量
6. 灰褐色土 3層より薄い、4層より薄い、灰褐色土やや多量
7. 灰褐色土 上層に灰褐色土やや多量、1mロームブロック少量
8. 灰褐色土 上層に黒褐色土やや多量
9. 灰褐色土 黒褐色土多量、灰化あり

第14図 1~5号土坑、調査区土層断面図



調查区遺物分布



第15回 遺構外出土遺物、調査区遺物分布

第2表 住居跡一覧

通称名	区	市十位置	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	床面高(±)	東西	電	時期	遺物	備考
1号住居跡	第4・5区	E-2・3・ F-3	正方形	3.08	2.47	0.31	5.4	全体的にやや 斜めにやや しりぞきあり 内には土や土器片が数多く 入れられていた。	南東隅に溝痕、袖どまり。 突出した雨庇に沿う。壁 内に土や土器片が数多く 入れられていた。	宮ノ前遺跡互期 (920~980年頃、 10世紀前半)	甲斐型環少ない。甲斐型環 が多い。須賀型土器・須 賀型土器片出土。	住居跡北面にソフ ト層あり。一部と 関連する可能性あ り。
2号住居跡	第9・10区	E-3・4・ F-3・4	長方形	(4.48)	3.88	0.37	(15.1)	壁北面は確認 できなかつた。支 柱石がみだりに 散置なし。	東端中央やや南寄りには溝 痕、袖どまり支障石あり。 突出した雨庇に沿う。支 柱石がみだりに散置され ていた。	宮ノ前遺跡互期 (860~880年頃、 9世紀後半)	甲斐型環少ない。甲斐型環 が多い。須賀型土器・須 賀型土器片が数多く 出土。第11区25・24は甲 斐型と須賀型が混在。支障 石は一角柱に加工し た。	住居跡南側に片層 穴あり。竪堀も出 土。ピット23と著 しく 異なる。
3号住居跡	第12区	C-4・5・ D-4・5	-	-	-	-	-	不明	壁の穴住居と考えられる 様止あり。	宮ノ前遺跡互期 (860~880年頃、 9世紀後半)	甲斐型環は壁をもち6もの が多い。第13区1は口縁部 に3本線の刻線あり。16~ 25は甲斐型と須賀型が混在。 25は甲斐型と須賀型が混在。 25は甲斐型と須賀型が混在。	遺物分布と壁止跡 から推定。裏面に より重なりが 多い。
4号住居跡	第13区	G-6	方形	-	-	-	-	壁北面は確認 できなかつた。	不明	9世紀後半?	黒色灰出土。内1つは須賀 型あり(「1」2ヶ所)	黒色レンヂで産 生。住居跡の北西 隅部分

() は残存値を示す

第3表 土坑・ピット…一覧

通称名	区	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考	遺構名	図	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考
1号土坑	第14区	C-5	131	113	90~91		9号ピット	第3区	C-2, D-2	62.5	49	13	
2号土坑	第14区	D-4	128	122	6~12		10号ピット	第8区	D-3	43	34	19	
3号土坑	第14区	C-5, D-5	76	62	24~31		11号ピット	第8区	D-3	34	26.5	11	
4号土坑	第14区	B-5	(76)	(28)	85		12号ピット	第8区	D-3	26.5	23.5	9	
5号土坑	第14区	C-5, D-5	50	48	16~22		13号ピット	第8区	D-3	37.5	28	8	
6号土坑	第8区	E-2	97	71	40~70		14号ピット	第8区	D-3	43	38	18.5	
7号土坑	第8区	E-2	(55)	52	31~32		15号ピット	第8区	D-4	20.5	17	5	
8号土坑	第8区	E-2	167	117	40~45		16号ピット	第8区	D-3	19	15.5	5	
9号土坑	第13区	G-6	82	(62)	-		17号ピット	第8区	D-3	16.5	16	5	
1号ピット	第8区	E-3	35	27	10.5		18号ピット	第8区	D-3, D-4	19	16	18	
2号ピット	第8区	E-2	41	33	15		19号ピット	第3区	C-3	40	27	10	
3号ピット	第8区	D-2	33	27	12		20号ピット	第8区	E-3	22	16.5	15	
4号ピット	第8区	D-3	34	26.5	20.5		21号ピット	第8区	F-3	21	(12)	26.5	
5号ピット	第8区	D-3	27	30	10		22号ピット	第8区	F-3	30.5	30	34.5	
6号ピット	第8区	D-3	26	22.5	13		23号ピット	第8区	F-3	31	27	17	2区内
7号ピット	第8区	D-2	32	29	17		24号ピット	第13区	G-6	46	42	-	試掘ピット
8号ピット	第8区	D-2	46	33	19								

() は残存値を示す

第5表 遺情別出土遺物一覽表

上段:個数 下段:重量(g)

時期	種別	器種	1号住	2号住	3号住	5号土坑	遺構外	試掘	合計	
縄文	土器		11	6	2		26		45	
			129.5	51.2	17.8		258		456.5	
	石器	定形石器					3		3	
		測片	3	2			28.9		28.9	
		黒曜石片	19.4	30.7			3		8	
			2				112.9		163	
	小計		2				1		3	
			2.7				0.7		3.4	
	平安	甲斐型	坏	16	8	2	0	33	0	59
				151.6	81.9	17.8	0	400.5	0	651.8
皿			21	20	2		23	33	99	
			102.8	29.6	36.6		48.5	80.3	297.8	
甕					1	3			2	6
					5.8	35.8			10.9	52.5
甕		65	88	30			24	38	245	
		931.5	967.1	333.2		158.8	247	2637.6		
不明		2	1						3	
		4.3	1.5						5.8	
小計	88	110	35	0	47			280		
	1038.6	1004	405.6	0	207.3			2655.5		
黒色	皿		7						7	
			156.7						156.7	
	坏	6	9	1		6	8	30		
		43.4	63.6	13.1		23.2	263.1	406.4		
高台坏						1	1			
						38.8	38.8			
小計	6	16	1	0	6	9	38			
	43.4	220.3	13.1	0	23.2	301.9	601.9			
土師	坏	4	18	7	1	4	2	36		
		7.5	66.6	109.7	2	16.1	15.2	217.1		
	似甲斐甕	20	5	15				40		
		471.2	85.5	221.1				777.8		
	口ク口甕	4						4		
		84.6						84.6		
	甕		23			3		26		
			161.3			49.6		210.9		
	羽釜	1						1		
		163.7						163.7		
甕形土器	4						4			
	213.7						213.7			
小計	33	46	22	1	7		109			
	940.7	313.4	330.8	2	65.7		1652.6			
須恵	坏			1				1		
				4.3				4.3		
	甕	7	4	1		7	4	23		
		874.8	139.5	14.4		484.4	191.8	1704.9		
小計	7	4	2	0	7		20			
	874.8	139.5	18.7	0	484.4		1517.4			
灰箱	碗	1	5	1		3	1	11		
	3.5	19.1	5.1		33.3	6	67			
石製品	砥石		1					1		
								0		
金襴製品			3	2		1		6		
			49	28		5		82		
	小計	135	185	63	1	71	10	465		
	2901	1745.3	801.3	2	818.9	307.9	6576.4			
近世	磁器		2			3	1	6		
			4.8			63.2	6.8	74.8		
不明		3	3	3		6	15			
		7.1	25	16.4		34.5	83			
合計		154	198	68	1	113	11	545		
		3069.7	1857	835.5	2	1317.1	314.7	7386		

圖 版



西燕南遺跡近景



調査区近景①



調査区近景②



調査区近景③



調査区近景④



調査区近景⑤



1号住(右)・2号住(左)



1号住(手前)・2号住(奥)



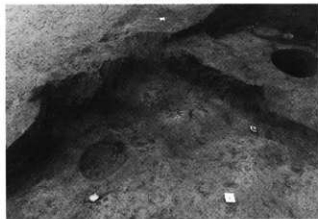
1号住居跡（西から）



1号住居跡（北から）



1号住居



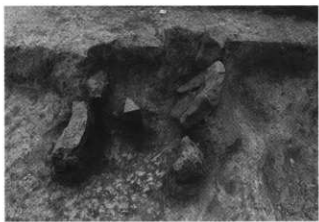
1号住居完掘状況



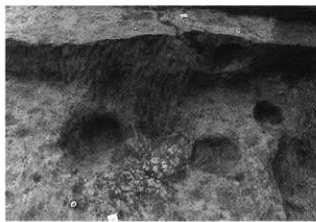
1号住居遺物出土状況



2号住居跡 (北から)



2号住居



2号住居完掘状態



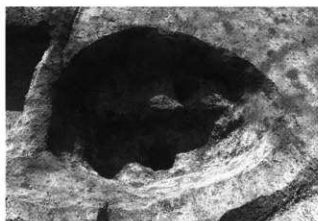
2号住ビット1遺物出土状況



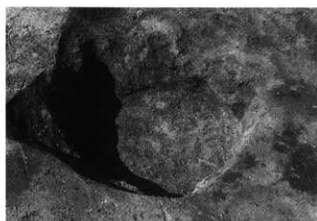
2号住紡錘車出土状況



1号住周辺ピット群



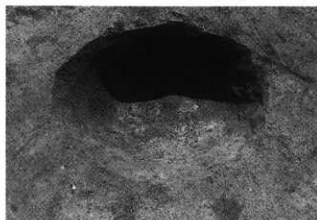
1号土坑



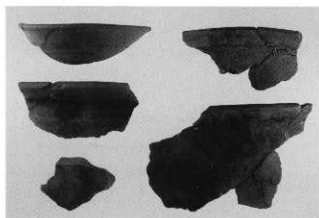
3号土坑



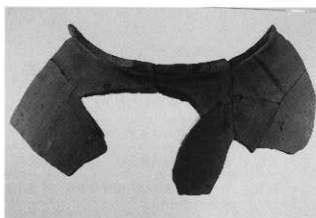
4号土坑



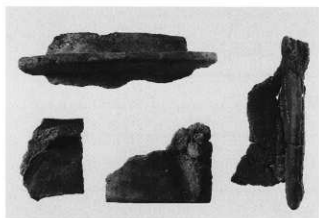
5号土坑



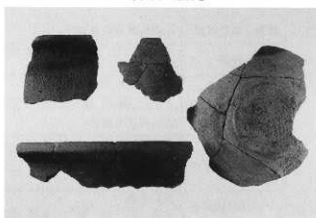
1号住出土遺物①



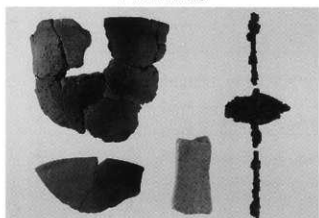
1号住出土遺物②



1号住出土遺物③



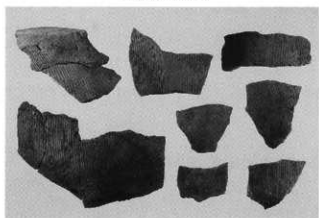
2号住出土遺物①



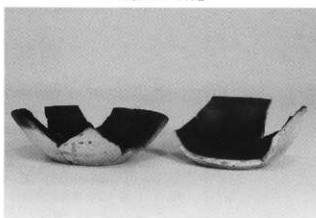
2号住出土遺物②



3号住出土遺物①



3号住出土遺物②



試掘トレンチ出土遺物

報告書抄録

フリガナ	ニシカプラミナミイセキ ハックツチョウサホウコクシヨ
書名	西蕪南遺跡 発掘調査報告書
副題	まきばの郷整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第31集
著者名	村松佳幸
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 TEL 0551-32-2111 (代)
印刷所	鬼灯書籍株式会社 〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5
発行日	2004年3月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町中丸字西蕪
遺跡番号	長坂町 No085
1/25,000地図名 位置・標高	長坂上条 北緯 35° 49' 36" 東経 138° 21' 01" 標高 777~778m
調査原因	まきばの郷整備事業
調査期間	2001年7月26日~2001年9月8日
調査面積	268㎡
主な時代	平安時代
主な遺構	平安時代の竪穴住居跡4軒、土坑9基、ピット24基
主な遺物	縄文時代(土器、石器) 平安時代(土師器、須恵器、灰釉陶器、紡錘車、磁石) その他(古銭)

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第31集

西蕪南遺跡

2004年3月25日 印刷

2004年3月31日 発行

編集・発行 長坂町教育委員会
〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19
TEL 0551-32-2111 (代)

印刷 鬼灯書籍株式会社
〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5
TEL 026-244-0235 (代)

